

網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari
visitor center

Vol.85
2019.7

ヤブキリの脱皮



触角の脱皮はより慎重に…

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

静かに脱皮する「ヤブキリ」

草木がぐんぐん育ち、フキやオオイトダリの葉が地面を覆い始めたある日の朝、ひざ丈程のイネ科植物の穂先で静かに脱皮しているヤブキリに出会いました。明るい黄緑色をした体は、半透明の古い皮から少しずつ時間をかけて出てきました。長く繊細な触角も途中で折れることなく美しい軌跡を描いて、芸術作品でも見ているかのようです。まだ翅は見られず、獲物を捕らえるための脚のトゲトゲもそれ程目立たない成長途中の様子が伺えます。春先はタンポポなどの花の上で2cmにも満たない小さな姿を見ることが多いですが、深緑時期になると見かける頻度が減り、秋の気配が漂う頃になると、重量感のある立派な成虫の姿を頻繁に目にするようになります。これからまた脱皮を繰り返し、立派な翅が揃って「ジリリーッ…」と鳴くようになるまであと少し。肉食性の印象の強いヤブキリですが、成虫になるまでにあと何回か無防備な姿で脱皮するかと思うと、あどけなさの残る姿に「もう少しだよ、頑張っって」と声をかけたくなる出会いとなりました。

“What is Yabukiri?”

「分類が難しいヤブキリ」

キリギリス科

体長：45～58mm 前後

分布：北海道～九州

幼虫は花粉などを食べているが、脱皮するごとに肉食性が増す。夜行性でオスは翅を使って鳴く。メスの産卵管はまっすぐに伸びていて土の中に産卵する。各地に広く生息しているが、見た目がそっくりで分類が非常に困難。

(参考図書：「図鑑日本の鳴く虫」)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



網張から見える 山ノート

18ページ目 早池峰山

はやちねさん
早池峰山

標高：1917m

位置（網張VCから）：南東

登山適期：特に花と紅葉が楽しめる6月
上旬から10月中旬

特色：希少な植物も多く、国の特別天然記念物、また国定公園に指定され保護されている。山頂は花巻市・遠野市・宮古市の境界でもある。

県内で2番目に高い山、神楽に高山植物、百名山…。早池峰山はいろいろな顔をもっていますが、造山の歴史からみても多くの謎が残されているようです。一般的には、古生代や中生代の海の底だった部分がプレートの運動によって隆起し、北上山地を形成したといわれています。日本列島が大陸の一部だった時代を経てやがて分離しますが、当時の北上山地は回りを海に囲まれた島でした。その後、浸食や周氷河作用^{注1}によって今のような地形になったそうです。典型的な「残丘」として紹介されてきましたが、異論も出ており今後見直される事もあるかもしれません。

早池峰山は非火山で、地質の多くは蛇紋岩^{注2}で構成されています。しかし、土壌の大部分は奥羽山系由来の火山灰が占めており、蛇紋岩の風化土壌はほとんど流出してしまっているそうです。しかし、ナンブイヌナズナやヒメコザクラのように早池峰山の固有種、いわゆる蛇紋岩植物が自生している場所の土壌は、植物性の腐植と蛇紋岩の細礫が混じったものが主で、火山灰の混入は極めて少ないそうです。土壌調査によると泥炭層やポドゾル化^{注3}した層が見られるケースもあり、早池峰山ならではの多様な高山植物の分布にも影響を与えている可能性があります。



特徴的な形の五合目「御金蔵」 写真提供：富山 昇 氏

注1 周氷河作用：地中の水分が凍結や融解を繰り返すこと（凍結融解作用）によって土壌や地形に変化をもたらすこと。

注2 蛇紋岩：かんらん石・輝石等からなる変成岩（または火成岩中の超塩基性岩）で、主として蛇紋石からなる。性質はもろく、粘土分が多く粘る。

注3 ポドゾル化：寒冷多湿により植物の分解が遅れてできた酸が土壌中の鉄やアルミを溶かして漂白層を作ること。

Amihari Birds

アミハリ・バース Vol. 28

チュイリーチュイリー♪鳴いた声の主を探すと、VC 北側スロープ脇に雨水流入を防ぐために置いてある丸太の上を、ごきげんな足取りで歩いていました。尾羽をピンピン上下に振って、ちょこまかと小走りする様子はどこかコミカル。

街中でも普通に見られるハクセキレイですが、実は日本書紀にも登場し重要な役割をはたしています。神話によるとイザナギとイザナミが国産みの仕方が分からず、そこに現れたセキレイのしぐさから着想を得て国土を創生したとか。その功績によって、神の使いとして敬われる事も。家に巣を作るとその家は子孫に恵まれ繁栄し、逆にセキレイをいじめるとその家は不幸になるという言い伝えもあるようです。一度、羽を扇のようにして雄が雌に求愛しているシーンに出くわしました。一瞥した雌は無情にも雄に一撃！つかれた雄は慌てて飛び去るといふ、ほろ苦い夕暮れの一コマでした。



ハクセキレイ

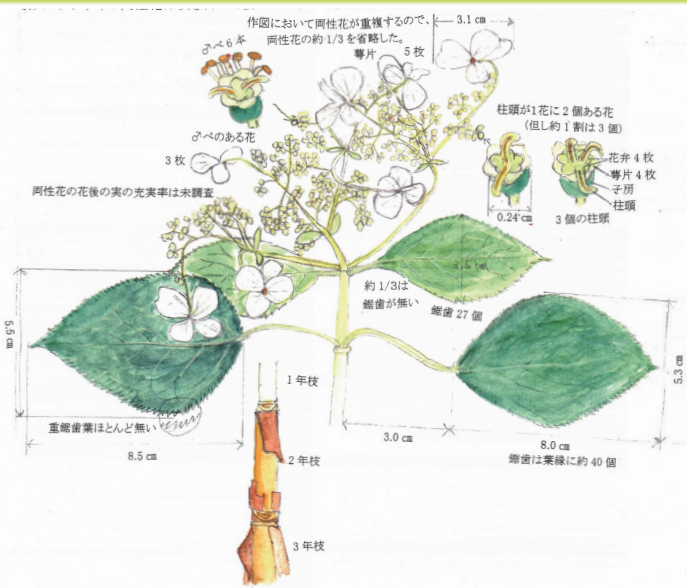
科名：セキレイ科
全長：約21 cm
生態：留鳥または漂鳥
分布：日本全国

喜作先生の自然スケッチ

ツルアジサイとイワガラミの違い

1. 装飾花の萼片が4枚（全体の78.1%が4枚で残り21.9%は1~5枚）のものがツルアジサイ、1枚のものがイワガラミ。
2. 樹皮が紙のように剥がれるのがツルアジサイで剥がれないのがイワガラミ。これは葉の無い時の判別に役立つ。
3. ツルアジサイは鋸歯が細かくて浅く1cmあたり6個前後あるのに対し、イワガラミの鋸歯は1cmあたり3個前後でチェーンソー用の丸ヤスリで目立てをしたようであり鋸歯で判別可。
4. 両者はほぼ同じ標高に生育しているようであるが、開花はツルアジサイの方がイワガラミより早い傾向。
5. ツルアジサイの両性花が咲き終わった2日後で装飾花は裏返しになる。イワガラミは未調査。（亀山記）

ツルアジサイ 2019.6.30 採取地：滝沢市鞍掛山麓



イワガラミ 2019.7.11 採取地：滝沢市鞍掛山麓



ようこそ 綱張へ ビジターさんにインタビュー 七月の巻



村井敬一さん 奥様と御一緒に

ビジターセンターに顔を出す度に動物の貴重な生態写真を持って来てくれるのは、盛岡市の村井敬一さん。その腕前は作品が教科書に載せられるほど。今回はツキノワグマの親子の写真。「野生動物で一番おもしろいのはツキノワグマ。出会ったら、先ず一時間以上は、じっと見ているだけ。それが楽しい。クマも北上山系と奥羽山系では性格が違う。北上山系のは御人好しというのか人馴れしているのに対し奥羽山系のは警戒心が強い。」・・・今まで危険なことは？「一回も無い。基本は一对一で相手も威嚇したり、逃げたりしない。こちらがじっとしていると次第に向こうから近づいてくるんだよ。相手の警戒心が緩んだところで初めて

シャッターを切るんだ。こちらがいかにも“撮るぞ”ではクマの目つきが緊張してこわばってくるのがわかる。」（隣で奥さんが「野生のクマは本当に美しいですよ。」と一言）

・・・村井さんにとってクマはどんな存在ですか？「クマが森をつくり自然を豊かにしてくれる。その姿を皆さんに紹介することが私にとっての自然保護活動だと思っている。」・・・全く同感です。若いころから山に登っておられますが、最近感じることはありますか？「昔の登山道は狭いがしっかりしていて花の数も多かった。最近の登山道は広がって深く削られ、あちこちに規制ロープが目立ち花の数も減ってきた。大勢が踏み荒らしストックの普及でさらに登山道を壊しているのではないか。」・・・最後にこのビジターセンターの印象はどうですか？「来るたびに新鮮で何か楽しいものが見つかる。それとスタッフといろんな話題で会話できるのがいいね。」



「網張ビジターセンターは何をやっているの？」



“沢山の目で探すと沢山のものが見えてくる”
 網張ビジターセンターでは手作りの「網張の森マップ」に森の中を歩いてきたビジターが、それぞれ発見したものを書き込む「網張の森でいきものみっけ！」を始めました。小さい子から大人まで大人気で毎日少しずついきものが増えていきます。やっぱり人に聞くより自分たち自身で発見するのが楽しいってことですね！



初夏の季節♪
 自然ふれあい
 プログラムに
 も大勢の参加
 楽しかったね

「シラネアオイがお出迎え」

6月2日 スキーグレンデ植物観察

「雨中の大松倉山登山」

6月29日 国立公園で楽しむ
 親子の自然体験 木登りにも挑戦



「噴気の現場に立つ」

7月7日 滝ノ上で市民火山教室

「暗闇の中での感動」

7月10～16日 網張の森では
 恒例のヒメボタル観察会



**参加者
 募集中!**

8月11日(日) 国立公園で楽しむ親子の自然体験

「テーブルな虫の世界へようこそ！だて先生の虫の見方・クラブ体験」

講師：伊達 功さん(岩手虫の会) 人と虫の間の通訳をしてくれます。大人500円 中学生以下300円

9月1日(日) 国立公園で楽しむ親子の自然体験

「おかわりしたくなる！炭火炊飯体験」

講師：坂内 信彦さん(炭焼き人) 雫石町で炭焼き一筋。大人500円 中学生以下300円



各行事参加の申し込みは直接
 網張ビジターセンターまで

“岩手山周辺、国立公園の自然”をテーマに自然に親しむ行事を開催します！

展示コーナー **現在開催中の企画展 工藤 義之さん 水彩画展** 8月31日まで



「焼け走り溶岩流の向こうに岩手山」

「山の風景」

あっ これ見たことがある！ 秋田駒ヶ岳のムーミン谷の静寂、のどかな鞍掛山登山道の木漏れ日、孤高のミツ石山頂露岩石など見覚えのある風景 14点、その他に登山道のかたわらで私たちを迎えてくれるショウジョウバカマやコマクサ、キオン、エゾニユウなど山の花のスケッチ 15点を展示。希望者には絵葉書を一枚100円でお付けしていますのでお気軽にインフォメーションまで。

モモンガのつばやき

毎年行っているヒメボタルの観察会に向けて、今シーズンはスケッチブックに紙芝居をこしらえて臨みました。しかし、涼しい日が続いたためかホタルの発生にはぶく、最初の3日間は天候不順もあって中止に。その後はやや持ち直しましたが、例年に比べると大人しい数のまま。それでも、一つ一つのホタルの光は強く、来年以降に希望を感じさせるものでした。

(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 5月 2, 243人 ◆ 6月 1, 643人
 朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 5月 9.7℃ ◆ 6月 11.9℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし 9時～17時